

平成 29 年度 宇治市観光振興計画推進委員会

会議要点録

日時：平成 29 年 5 月 31 日（水）

午後 5 時 30 分～

場所：宇治市役所 8 階大会議室

<次第>

1. 開会
2. 委員の委嘱
3. 議事
 - (1) 委員会の公開
 - (2) 前期アクションプラン進捗状況について
 - (3) その他
4. 閉会

<出席委員>

森 正美	京都文教大学 教授
北村 善宣	社団法人 宇治市観光協会 会長
神居 文彰	平等院 住職
佐脇 至	宇治橋通商店街振興組合 理事長
池本 将孝	宇治源氏タウン銘店会 副会長
湯瀬 敏之	京都府山城広域振興局 農林商工部長

事務局：宇治市 市民環境部 商工観光課

<欠席委員>

山本 哲治	宇治商工会議所 会頭
古賀 則行	平等院表参道商店会 顧問
辻 俊宏	宇治茶商工業協会 会長
辻 四一郎	宇治市茶生産組合 組合長

敬称略

《資料 宇治市観光振興計画推進委員会名簿》順

< 要点録 >

●前期アクションプラン進捗状況について

事務局より資料説明。その後各委員より発言。以下、委員ごとの発言要約。

【森委員長】

次の後期のアクションプランに向けて、前半（H26～H28）の中でトータルとしてどうだったのか、後期に継続していくべきものは何か、新しく実施すべきは何かという点で議論を行うことが重要。

【神居委員】

アクションプランに基づく事をすでにいろいろ実施しているが、市で実施したPR動画の評判はどうか。

→(事務局)秘書広報課で実施した取り組みではありますが、アクションプランの位置づけとして実施した取り組みではないが、反響は大きくあった。

【神居委員】

観光を含めた宇治市の活性化については、各課と連携しながら取り組んでいく必要があると思う。また、やる以上は、良い効果が上がっている事業に取り組んでほしい。

DMOの期間、今後の展望及び連携方法について教えてほしい。

→(事務局)DMOについては、今年の4月から立ち上がり、現在、活動を行われている。国からの交付金が出るのが3年となっており、交付金が仮に3年で終わった場合でも、3年目の検証は必要であると考えており、3年間の動きの中で今後の展望も決めていくことになると考えている。

【森委員長】

PR動画、DMOについては、他部署、組織がアクションプランとは別に実施することになるものであり、観光振興計画との方向性と重なっているのかは把握しておくべき。

後期のアクションプランを披露するうえで、年々の進捗管理、メニューの追加について、どのような形でおこなうことができるのか整理しておく必要がある。情勢が変化していく中で、アクションプランが置いてきぼりになることもあるので、年度ごと、各組織の連携をしていくことは行政に求められる。

【佐脇委員】

今、中宇治には4つの商店街があるが、来られる方には、どの商店街かというのはあまり問題ではなく、連携していく必要がある。マップにしても、商店街単位のマップはあるが、連携したものはなくひとつにまとめると理想かなと考えている。

GWの宇治茶の接待については、とても好評だと思いますが、買えるところがない。個人的には、飲んでもらって、実際に買ってもらうことができれば一番良いのかなと考えている。

人材育成についても、商売人が観光について、ブラッシュアップできる組織や勉強会があれば、観光についての知識が得られて良いのかなと考えている。

【池本委員】

宇治源氏タウン銘店会において、観光のために活かせるものというのはいくつかあるのに、活かせてない課題があると考えている。

商店街として、間延びして店舗が少ないのですが、アニメのシーンにもなっていることからSNSなどで投稿してくれることも多く、外国人観光客も夕方の時間になっても人は歩いているが、ほかの商店街と比べると少しさみしい状況である。これから、観光サインも新しくなりますが、こちらにも人が来てもらえる仕組みづくりをしていければ良いなと思います。

【神居委員】

太閤堤からあの道を散策スポットにできないか市（歴史まちづくり推進課）は検討していたと思う。

【森委員長】

周遊性をどのように高めるかという話は、前期アクションプランでも触れてはいるが、具体的にどのエリアでどのようにしていくかというところまでは詰め切れていない。歴史まちづくり推進課の中では、ゾーニングとしては、エリアの中に入っているが、その中でどのようなビジネスを誘導するかなど観光プランとしては、あくまで観光振興計画との連携でしかなく、独自案があるわけではない。なので、それぞれの立場で情報発信をしていかないとなかなか難しい。

活かせるものがあるのに活かしきれていない理由と夕方のひとが少なく寂しいとあったが店自体はやっているのか。

【池本委員】

店は夜の営業は行っていない。

【森委員長】

時間帯の行動も含めてコーディネートしていかなければいけない。商店街によっては、夜の明るさのために、一定間隔でコンビニを入れるなどしている例もある。源氏タウンにあっていると知らないが、そうした方法で街を明るくし、防犯上にもぎわいを作るという話は、都会などでは行われている。観光地では、どの時間帯に客を呼びたいかによって方法が変化していくので、観光アンケートなどを踏まえて、後期のアクションプランでどうしていくかが重要である。

【湯瀬委員】

宇治茶の文化遺産登録事業にかかわらせていただいて、7年目になりますが、私の部署に求め

られていることは、宇治茶の長い歴史を多くの方に知っていただくと同時に、それを支えてきた地域のすばらしさを事細かに知っていただくことだと思います。お茶の京都やDMOというのがしっかりと連携をとれているのか反省をしている。DMOについては、4月にできましたが、まだまだ宇治のことや宇治茶のことをよく分かっていないところもありますし、お茶の京都につきましても、十分にコミュニケーションが図れていないと感じています。10月にメインイベントを行いますが、そこに向けてコミュニケーションを図っていきたいと思っています。

山城地域が宇治茶を支えているのだということをもっと広く知っていただきたい。宇治に来て、更に深いお茶の歴史、お茶の地域をたどっていただけることが、おそらくDMOにも求められていると思います。その中で、電車で旅行される外国人の方は、京都方面から宇治で降りることが少なく、奈良へ向かわれることが多いと思いますが、その方たちをいかに宇治に降りていただき、買い物いただくという発想が必要になっているのではないかと思いますので、後期のアクションプランに時代の流れを組み込んでいき、突き詰めて考えていかなければいけないと思いますし、京都府としても、地域の方とのコミュニケーションを大切にしていかなければいけないと思います。

世界遺産に関して、保全の仕組みも求められますし、日本遺産に関しては、ストーリーを重視し、保全の仕組みを十分に考えないままに構成しているところもありますので、両方において、保全の仕組みを考えていくことが、結果的に、観光振興、地域振興、あるいは、いろいろな産業につながると考えています。

【森委員長】

インフラの整備については、観光の中で非常に重要な要素であり、前期のアクションに入っていなかった要素として、DMO、お茶の京都、日本遺産を挙げていただきましたが、この計画では、策定後にできたものに対して、対応できていない。新しくできたユーフォニアムについては、課のレベルで具体事業を入れていただき、放ち鶴飼については、メニューに加えていただきました。

【北村副委員長】

インバウンドについては、ここ数十年の間にすごい勢いで増加している。今年についても昨年を上回る勢いである。宇治市、商工会議所、観光協会でインバウンドに関しての戦略をやっており、台湾、香港、韓国、そして、タイをターゲットとしています。また、外国人旅行者が急激に増えたことにより、観光動向調査をアクションプランにおいて実施していただいております。免税店においてもインバウンドの人数に応じてその日の売り上げが大きく変動しており、インバウンドの動向については、もう一度しっかり把握する必要があると思いますし、インバウンドの受け入れ体制の強化は、喫緊の課題でありますし、スピード感を持って取り組んでいくべきであると思います。

【森委員長】

前期のアクションプランについては、インバウンドに関してあまり盛り込めていない。今年は、観光協会、宇治市と協力して、観光地の質の向上に向けて、今年度中に、インバウンドに対して

の施策をスピード感をもって行わなければいけない。商工会議所、観光協会としてどのようなプランがあるのか後期のアクションプランを練り直す中で考えていかなければいけないと思います。

総括についてですが、舟茶席については利用者が減少していたり、対鳳庵については日本人の利用者数は横ばいに対して、外国人の数が増加しており、もう少し細かい読み込みが必要となってくる。

市民観光デイについて、おもてなしの観点から今回新しく実施しましたが、市民の方々からどのような評価をいただいているのかが分からない。宇治学のように学校現場で取り組んでいるものに関しては、少しずつ確実に成果を上げているが、その効果が表に出てくるまでには、相当時間がかかる話である。そういう意味では、市民観光デイは、何か次につながっていくのか、方法を変えてくべきなのか考えていかなければいけない。

観光と防災についても、H26 から進んでいない。防災については、市ではかなり進めてきているはずだが、インバウンドの施策の中でも考えていかなければいけない。

トイレの解放の施策についても、H26 で止まっており、先ほど、インフラ整備の話がありましたが、改めてもう一度、前期アクションプランの中で実施した受け入れ体制などのハード面と情報発信、満足度を整理しないといけない。

【事務局】

観光という切り口を内側に向けることと外側に向けるといった話があったと思います。急激にお客さんが増えた中で、外に向けて動いているうちに今日まで来たという実情です。その中でも、宇治市観光振興計画の考えに沿って動いては来たつもりです。課題となるのが、受け入れのことだと思いますし、一番の肝になります商店街の連携についても、観光の面、そして商工の面からも他の例も調べる中で考えていく機会をこれまで以上に作っていきたいなと思っています。

また、お茶に関しても、DMO と宇治の業務の上手い切り分けというのが求められており、山城全体が観光の目的地になるとともに、宇治が培ってきたノウハウを分けていながら、宇治に効果のある取り組みになるということも一緒に実施していくというスタンスで調整を行っております。宇治市内での、農業としての茶園がこれ以上衰退していくと、高級茶としての値打ちが損なわれていく危機感を持っておりますので、その部分を支えていけるようなアピールをしてきたいと考えております。

市民観光デイについては、これまで3回実施する中で、息の長い話だと感じています。おもてなしという本計画の基本的な考え方からいえば、必要なことであると思います。

前期アクションプランの総括ということに関しましては、後期アクションプランを作っていく上でも必要なことであり、総括の在り方についても引き続き一緒に考えさせていただければと思います。

【森委員長】

本計画の中で、後期アクションプランを終えた H34 時点の数値目標を示していますが、この指標が前期が終わった時点で今後どうしていくのか検討しなければいけないと思います。

【事務局】

本日いただいたご指摘の内容、ご意見を強く受けとめ、宇治市観光振興計画のよりいっそうの推進を皆様と一緒に頑張っていきたいと思えます。ありがとうございました。